

各世帯1部ずつお取りください!!

OKONO KUME だより

～いつかあなたのお役に立ちます～



▲HPはこちら

第12号

令和4年12月発行

最新の包括
小野久米情報

交流イベント

『GO!GO!俳句in小野久米』 を開催しました>(*^-^*)

7月26日、地域包括支援センター小野久米では地域の介護保険の関係者(主にケアマネジャー)と小野地区、久米地区それぞれの民生委員さん、地区社協のみなさん、そして松山学院などの生徒さんたちが交流するイベントを開催しました。

コロナ禍が続く中で開催となりましたが、感染予防を万全にして、総勢105名の方が参加してくれました!

包括小野久米では昨年度から、小野久米地区の小中学校や地域のみなさんに向けて、「あなたの俳句で街を元気にしよう!」と題して「介護」や「認知症」にまつわる俳句を募集してきました。その結果、集まった俳句数は約650句!!

その中から、より素敵な句をみんなで選句しよう、と開催したのがこのイベントです。

選句にあたっては鷹子町在住の俳人「あねご」のアドバイスをいただき、当日の解説もしてもらいました!

同じ句を共有しても、その五七五の言葉から連想される世界は、本当に様々で俳句の奥深さ、そして無限に広がる言葉の力というのが会場全体を盛り上げました。

たくさんの素敵な句の中から選ばれたさらに素敵な句を紹介します!

季語がない句もあるけれど、あたたかい気持ちが伝わればOK!ということので!

選句の様子

最優秀句

『名月を 楽しむ二人の 万歩計』
水野 洋子さん(地域)

その他の優秀句

『新学期 何度も聞いてね 何年生』
大塚 歌乃さん(小野小)

『車いす 思い出いっぱい 出発だ』
渡部 莉子さん(窪田小)

『あたりまえ 大事に思う 夏の道』
菅 翔成さん(久米中)

『広げよう 温かい言葉 理解の輪』
馬越 なつ美さん(小野中)

『遠くても 心はそばに いるからね』
三好 遥さん(北久米小)



松山市には認知症初期集中支援チームがあります
認知症・介護についての相談は

松山市地域包括支援センター小野・久米まで 970-3761



耳より情報

サービス付き高齢者向け住宅



「あ・ベンチのすまい」オープン!



サービス付き高齢者向け住宅とは?

一般的な介護施設のイメージよりもっと
自宅に近い空間に自分のペースで生活し、
ケアの専門家による安否確認や生活相談
サービスを受けながら過ごして頂く施設です。



今回は、平井に建設中の「あ・ベンチのすまい」に行って代表の阿部さんに話を伺ってきました。阿部靖さん、もともとは20年小野地区にある梅本の里で勤務されていた地元にゆかりの深い方なんです。その後ケアマネージャーを経験された後、2017年から、東温市下林でデイサービスセンターあ・ベンチを立ち上げられ現在6年目。色々なめぐりあわせもあり、今回、介護の基礎を学び、温かい人柄に育ててもらった小野地区で恩返しをする機会を得られたとの事。実際にデイサービスあ・ベンチを見学すると、洗濯物を畳んだり、食器洗い、お味噌汁を一緒に作ったり等身体の状況に合わせて、皆さんが出来ることをいきいきとされていきました。

阿部さんが長年働いて大切にされている事は、高齢者に「役割が出来、誰かの役に立ってる」と生きがいを感じてもらいながら楽しく過ごしてもらうこと。

現在建設中の施設には、そんな居心地の良いホッと空間を作りたい。それがあ・ベンチの住まいだとおっしゃっていました。来年1月OPEN予定ですので、気になる方はぜひ見学をどうぞ。

デイサービスセンターあ・ベンチの様子



代表の熱い思いを共に
分かち合う素敵なスタッフも
絶賛募集中との事です。

お問い合わせ先

090-9450-0546 担当：阿部

小野の昔がたり (語り部 山内さん)

猫車

冬になると夜明けの小径を通る猫車の音に目を覚まします。猫車を押していたのは北梅本、南梅本は勿論、遠くは久米窪田、重信の新村の若者です。

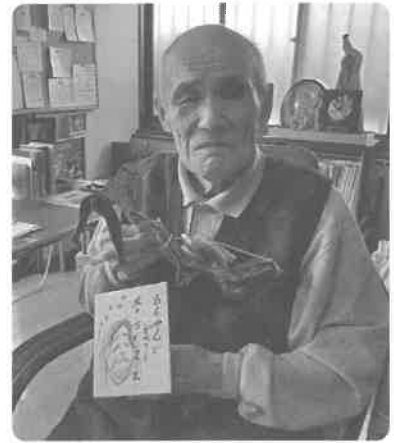
柳行李の下と上の部分へびっしりと詰めたお麦飯へ梅干しとたくあんを添えたお弁当を持って尾股谷へ行くのです。

鎌研場と云う所で許可を得る間に朝飯を済ませます。鎌研場は小野川と尾股川の出会う所で鎌を研ぐのに手頃の石があったと云います。薪は一と抱へぐらいのを六束できると猫車に積んで昼飯をしてゆっくり下り、途中で休み休み家に帰ります。家の庭にある高く積



んだ薪を見て近所の人等は若者の働きぶりを褒めあつたりしたそうです。

薪は「かまど」や「五右衛門風呂」になくなくてはならないものでこうして来年を迎えるのです。



ゆきお
山内之夫さん(94才)
北梅本在住

お正月

「おタヤンがイガンでも大きい方がエーエー」

お多福のお面をつけた女の人が寒いのに藁ぞうりを履いて畦道を来ると男の子らは喜んで迎え、女の人のお尻をぞろぞろ付いて行きます。一軒一軒「かどつけ」をします。

家々では新しいお餅を何個かあげると隣の家へ行きます。子供らは終わるまで付いて行くのです。

もう一つは木偶(でこ)まわしのおじさんが来ます。

小太鼓を叩きながら袴を付けたおじさんと荷を担いだおじさんです。家の者は道で待って二人が来ると家へ入り迎えるのです。

「恵比須さんと大黒天さま」を籠から取り出し担ぎ棒に取り付け、歌を唄いながら面白く操ります。踊りが済むと奥に用意したかまどの側の藁束へ刺して家の安全を祈ってくれるのです。

芸達者の之夫さん



子どもへのお土産

昔はどの家も貧乏で買い物に行くのは年末かお盆くらいでした。買い物に行くとしても二里(約8キロ)くらい歩いて町へ行くのです。

父親は必ず子供の物を買います。独楽、凧、いろはガルト、まり等を買います。お正月には部落の子供らは交換しながら楽しく遊びます。



今回の注目記事

「チョイソコおのくめ利用者の声」

今年の9月から利用を始めた、平井町の大政君子さん(89歳)にお話を伺いました。

チョイソコが始まったことは友人から聞いていたが、利用は考えていなかった。きっかけは、毎日通うことになった点滴治療。タクシーで通っていたが往復料金が高くつく。そんな時、病院までチョイソコが使えることを知った。往復料金を考えると月3,000円で利用できることはとても有難く、すぐに申込みをした。予約がとれないこともあるが、チョイソコが空いてる日時に合わせて出かけている。病院だけでなく、今度は重信のフジに行きたい。いつもはヘルパーさんに買い物を頼んでいるが、自分の目で見て買い物できることがすごく楽しみ。楽しみが1つずつ増えていく。



取材を終えて、行ける場所が増えることで、「次はここに行ってみようか」と考えることが楽しくなり、色どりのある生活が送れるようになって感じました。今より少しだけ、毎日を楽しく過ごすことができるための手段として、チョイソコを上手く活用することも一つだと感じた取材となりました。興味はある方は、お問い合わせしてみてくださいはいかがでしょう？

元気な頃は行きたい時にどこへでも行くことができた。できなくなって初めて、移動手段が大事だと思った。チョイソコがあってよかった。私も利用させてもらえて嬉しい。

お問い合わせ先

NPO法人まるっとおのくめ事務局 Tel. 090-4087-0547

みまもりあいアプリで今回の山内之夫さんと大政君子さんのお話を生の声で聴けます。『みまもりあいアプリ』のダウンロードはこちらからどうぞ

「みまもりあいアプリ」とは地域住民同士が「みまもりあいアプリ」で繋がることで、高齢者から子どもまで多世代にわたるみまもりあい、そして災害が起きたときには連携し、助け合える安心安全のまちづくりが可能となります。



令和4年12月発行

取材・編集

ケアネットぷらす 情報発信部 OKもっと

柿坂 健介・余田 英樹・稲荷 衆一・仲村 竜哉・渡部 保子
青木 正樹・荒田 真紀・新名 勝美・林 麻未・松山 絵理香

発行者

ケアネットぷらす 情報発信部 OKもっと

事務局

松山市地域包括支援センター小野・久米 松山市鷹子町740 (鷹子ふれあい館2階)
TEL 089-970-3761

印刷

明朗社